

環境
大臣賞

大企業区分

株式会社ジャパンセミコンダクター

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	岩手県北上市北工業団地 6 番 6 号
業種	製造業
社員数	2,100 名
受賞歴	2016 奨励賞、2017 優秀賞
ウェブサイト	http://www.jsemicon.co.jp/

全員参加の環境活動で社会に貢献する取組を通じた従業員の育成

取組の目的

株式会社ジャパンセミコンダクターでは岩手事業所(以降、「岩手」と記載)、大分事業所(以降、「大分」と記載)が相互に協力し、連携や情報交換を行いながら環境の取組を進めている。環境負荷低減活動はもとより、各種イベントを積極的に展開し、責任者のリーダーシップと全従業員の参加により職場の雰囲気盛り上げ、従業員の環境意識向上を図っている。近年は、環境活動を通しての社会貢献活動やコミュニケーションに注力し、地域との協調・連帯、信頼関係を深めている。こうした活動を継続し、環境を大切に思い、自ら行動できる「人財」の育成に努めている。

取組の実績

◇全従業員対象の教育

(1) 環境教育

東芝グループ企業の一員として、当社全従業員及び構内常駐会社を対象に環境教育を実施。内容は、地球温暖化問題をはじめ、取り組むべき環境負荷低減活動、コンプライアンス、緊急時の対応等である。教育を通して従業員の意識を啓発させ、各人が率先して行動することを狙っている。

(2) SDGs 教育

環境経営を標榜する企業として、世界が注目している SDGs の内容を理解しておくことは極めて重要であることから、構内常駐会社を含む全従業員に SDGs の教育を実施した。日頃行っている環境保全活動は正に SDGs の目標そのものであることを認識し、各人が世界共通の同じ目標に

強い気持ちで向かっていくよう、働きかけている。

SDGsの教育を全従業員対象に実施(※常駐会社を含む)
SDGsを理解し、17のゴールを意識した本来業務を推進

世界が注目し、取り組んでいるSDGsとは？

環境保全の推進は、SDGsの目標達成そのもの

SDGsの目標と我々の本業を融合させ、展開

SDGsの本業業務への展開 (2/5)

環境目的・目標	該当職場	本来業務、具体的な取組	関係するSDGs
1. エネルギー起源CO ₂ の削減	総務部門 製造部門	・社内内部の機材技術的検討、効率化部門、削減し、設備(再生可能)の導入 ・社内外の社会的貢献活動、CSR活動(社会貢献活動)の推進(CSR)等	7 13 15 17
2. 温室効果ガス(除CO ₂)の排出削減	総務部門 製造部門	・PFCの使用量の管理 ・PFCの回収/代替の検討/検討 ・作業時間/稼働日の削減/削減 ・事業所内/社外関係者の削減、CO ₂ 削減 ・CO ₂ 削減の特長/特長を促進	7 13 15 17

e-learning、集合教育等で全従業員が学習

◇従業員の啓発活動

(1) 月間行事による各種活動の展開

① 環境月間行事

2018 年も各種イベントを企画し、全従業員の意識啓発に向けて取り組んだ。「岩手」、「大分」が協力し、今年も「花咲く 道しるべプロジェクト」として構内外で花の植栽活動を行い、2017 年よりもパワーアップした内容を展開。「岩手」は今年初めて「北上市花いっぱい運動」にも参加し、本プロジェクトと併せて活動した結果、コンクールにおいて職場花壇の部で参加 16 団体中、2 位となる優秀賞を受賞した。「大分」は 2019 年のラグビーワールドカップの会場となっており、大会を盛り上げようと事業場前の国道沿い約 200m にわたり花を植えた。この植栽は来年の大会本番まで行う。この他、昨年実施した「家庭の不要ケーブル・コードの回収」を今年も行い、売却で得た収益金を災害被災地の義援金として寄付した。また、新企画として「机の中のリユース」と題し、各人の職場の机にある不要な文房具などを回収し、両事業所で「リユースショップ」を開いて従業員で再使用した。参加者からは「机の引き出しを整理したら、使っていないものがこんなにあって驚いた」との声があった。このイベントは大変好評で、次回も開催して欲しいとの要望が多数あり。

② 5R 推進月間

10 月は 5R 推進月間として各種イベントを実施。当社は 3R に 2 つの R (Refuse: 廃棄物になるものを拒否、Repair: 修理) を加えて活動している。2018 年は新企画として「全員で取り組む『5R リーダー宣言』」と名づけ、社長、部長等 33 名が 5R に関する意気込みを宣言し、動画に収録。撮影した宣言の様子を社内 HP に掲載し、全従業員へ公開することで 5R 意識の更なる定着を図った。また、職場の環境推進リーダーから提案があったアルミ



「全員で取り組む『5R リーダー宣言』」動画

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

缶の回収活動を行い、家庭から空き缶を持ち寄り、引取業者へ売却することで収益金を災害被災地の義援金として寄付した。今回は従業員の教育にも取り組み、5R 推進を目的としたリサイクル学習会を開催して 72 名が参加したほか、他企業との交流会を行い、各職場のメンバー61 名が他企業の活動を見学し、意見交換することで意識の高揚を図った。

③ 省エネ月間

年間のエネルギー使用量が最も多い 2 月と 8 月を省エネ月間とし、各種行事を行っている。2018 年 2 月は、製造部門や動力部門など、各部門で巡回点検を行い、不具合箇所を是正するなど、職場の省エネ徹底と意識向上を図っている。8 月は動力施設見学会を行い、ボイラー設備、排水処理施設など、普段目にすることがない動力関係の現場を各職場の従業員 26 名に見学してもらった。参加者は、動力の安定供給や環境に配慮した運転管理の重要性を知ること、環境保全への理解がより深まった様子で、有意義な企画であった。

(2) 環境団体主催の勉強会

岩手県環境カウンセラー協議会が 2018 年に主催した講座「いわて環境塾」に各職場から参加し、環境学習の貴重な場として有意義な勉強の機会を得ている。講座は計 6 回のシリーズだが、希望者は関心のあるテーマのみ出席可能で、参加費は回数に関わらず無料。内容は座学に加え、屋外学習もあり、環境を広く学ぶことができ、参加者は大変満足している。

◇コミュニケーション

(1) 「環境報告書 2018」発行

当社として第 3 版となる環境報告書を 2018 年 6 月に発行した。今回からスタイルを一新し、これまでの冊子型からリーフレット版とし、より簡潔で分かりやすい内容とした。名称も「SUSTAINABILITY REPORT 2018」とし、発行部数も昨年の 2 倍となる 400 部を作成した。会社 HP からも閲覧可能であり、全従業員へ 1 年間の活動成果を PR している。

(2) 環境行政に参画

北上市が定期的で開催する「きたかみエコネットワーク推進会議」の委員として、企業の立場から同会議に出席している。各方面から出席している委員と一緒に、北上市の環境基本計画について審議し、意見・要望を同市の環境行政に反映させている。

(3) 大学の先生とのコミュニケーション

当社の環境活動について専門的な立場から助言を頂き、取組に反映させるため、大学の研究者を訪問してコミュニケーションを図っている。2017 年 12 月～2018 年 10 月にかけて、岩手県内の大学で環境関係を専門とする先生を訪問し、今抱えている課題や今後取り組んでいくべき方向などについて会話し、貴重なお話を頂いている。その結果、SDGs の社内教育実施、多量廃棄物の削減検討など、具体的な行動につながっている。

(4) 地元企業とのコミュニケーション

「大分」では毎年、大分市内の住友化学 大分工場様、昭和電工 大分事業所様との小学校へのお出前授業の打合せやソニー大分テック様との環境に関する情報交換などを実施している。また、新たな取り組みとして、臼杵市にあるフドーキン醤油様との環境ディスカッションを実施し、他企業の良い活動の取込を行っている。

(5) 地域との交流

① 近隣住民とのコミュニケーション

「大分」は、地元自治会の皆様を定期的にお招きして会社見学会や交流会を開催し、交流を深めている。2019年のラグビーワールドカップの会場が会社近隣であることから、大会に備え、地域の方々と一緒になって近くの国道沿いに花を植栽した。また、会社の夏祭りで毎年行っている「Ecoチャリティバザー」にもお越し頂き、毎回楽しみにされている方も多し。多くの従業員が、環境を通じた地域とのつながりを大切に感じている。

また、「大分」ではホタルの生息が確認できなかった近隣の北鼻川にホタルを呼び戻そうという活動を地域住民と行い、ホタルの餌となるカワニナを継続的に放流している。2015年より事業所周辺でホタルを確認できるようになったことから、地域の皆様や従業員の家族によるホタルの観賞会を実施しており、川の環境保全の大切さを感じている。

② 地元住民、企業等とのコミュニケーション

「岩手」は「地域とはじめる環境報告会」と題し、市民、企業、行政、学校、NPO等をお招きしてコミュニケーション活動を行っている。地域との協調・連帯、信頼関係の維持を目的として毎年開催し、2018年で14回目となる。会社の紹介、工場見学、環境報告会を基にした環境活動の説明、意見交換を実施。今年は植物を専門とする大学の先生にご出席頂き、生物多様性の活動にご助言を頂いたほか、市内で環境活動を行っている市民にもご参加頂き、取組について貴重なご意見、ご要望を頂いた。頂戴したコメントは従業員にも伝え、環境活動に反映させている。

◇社会貢献活動

(1) 小学生対象の環境授業等

① 環境出前授業

「大分」では、近隣小学校での出前授業を実施している。講師は施設管理部の女性で構成する「エンジェル隊」が中心となり、発電や排水処理の実験、CODパックテストなどの体験型学習を通して自分たちで何ができるかを考えてもらっている。教える側としては、子供たちに興味や関心を持ってもらい、理解してもらえるような説明を心がけている。

② Eco楽集会(がくしゅうかい)

「Eco楽集会」と題し、毎年、大分市内の小学生を事業所にお招きして、工場見学、環境活動の紹介、実験などを通して会社の様子や取組内容を伝えている。環境を守り、大切にすることの必要性を知ってもらう機会として毎回好評である。女性従業員で構成する「エンジェル隊」が中心となり、各職場のメンバー、新入社員もスタッフとして協力するなど、会社全体で活動を支えている。教える立場としては、丁寧で分かりやすく、楽しく学んでもらうことを意識しながら、毎回工夫を凝らした企画を行っている。

③ 自然観察会

「森の科学探検隊」と題し、北上市内の公園を会場に自然観察会を毎年開催している。当社従業員がイベントを企画し、各職場のメンバーがスタッフとして協力。プロのナチュラリストを講師に迎え、公園内の動物、昆虫、植物について、市内の小学生と保護者へ説明を行っている。自然を題材としたゲームやクイズ



自然観察会

捕まえた生き物を職場スタッフが説明

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

も行うなど、毎年好評となっている。参加者が喜び楽しんでもらえるよう、企画の担当や各スタッフが毎回工夫しながら大会を盛り上げている。

(2) 地域清掃活動

「岩手」は北上市の中心市街地を毎年清掃しており、2018年で26回目となる。従業員と家族が参加し、休日に行われるが、参加数は年々増加し、近年は毎回約300名となっている。「大分」は会社周辺を対象に毎年清掃を行い、2018年で35回目。地元ではすっかりお馴染みとなった活動で、地域の皆さんから「ごろうさま」と声をかけられる。これからも、企業としてごみのないまちづくりに貢献していく。

(3) 行政のイベントに参加

北上市花いっぱい運動推進協議会(事務局:北上市)は、同市の花である「しらゆり」(やまゆり)の植栽地にて、7月に整備作業、10月に球根植栽会を行い、当社従業員も参加した。しらゆりは「岩手」でも育てており、参加したメンバーはしらゆりへの関心や興味が更に高まった。この作業は来年も行われる予定で、社内にPRして参加者を増やしていく。

◇生物多様性保全活動

(1) 希少植物の繁殖、生態系ネットワークの構築、在来植物の確認・保護

「岩手」では構内に花壇を造成し、絶滅危惧の恐れがある植物や近隣では見かけなくなった植物を育て、増やしていく活動を行っている。対象はサクラソウ(環境省レッドデータ;準絶滅危惧、いわてレッドデータ;Bランク)、クリンソウ、ニッコウキスゲ、オカトラノオである。これらの植物は従業員が簡単に観賞できるよう、プランターにも植えて構内各所に設置している。また、工場設立前、この土地で生育していたと思われる在来植物の存在を確認するため構内を踏査し、該当する草花が見つかった場合、保護している。生態系ネットワークの構築にも取り組み、近くの山に生息している国蝶オオムラサキを呼び込むため、幼虫の食樹であるエゾエノキを植え、飛来を期待している。

◇環境関連表彰への応募

従業員の環境保全活動のモチベーション向上を狙い、環境関連の各種表彰へ積極的に応募している。受賞することが励みとなり、各人の取組への意識高揚につながっている。この1年間では4件の表彰があった。

- (1) 2018年2月:県南広域振興局環境大賞(岩手県)
- (2) 2018年5月:「環境 人づくり企業大賞 2017」優秀賞(環境省)
- (3) 2018年6月:ECOアクション賞(温暖化防止いわて県民会議)
- (4) 2018年10月:北上市花いっぱいコンクール(職場花壇の部)優秀賞(北上市花いっぱい運動推進協議会)

上記4件の内、(1)、(3)、(4)については、表彰式において活動事例発表を行った。

成果・課題

当社は自ら進んで環境へ取り組む「人財」の育成を重要テーマの一つに挙げ、近年注力している社会貢献活動を通して「環境 人づくり」を推進している。2018年は各種月間行事のレベルアップ、新たな環境教育の実施、行政・環境団体主催のイベントへの参加、地域と連携した活動、コミュニケーションなどを通じて従業員の活動や意識高揚の機会を多数設けている。

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

6月の環境月間では、2017年に開始した「花咲く 道しるべプロジェクト」を更に発展させ、「岩手」は「北上市花いっぱい運動」に今年初参加し、市から提供された花(3000株)に加え、購入した花(230株)を全社活動として6月に構内外へ地植えやプランターで植栽した。活動終了の10月まで全従業員が交替で花の水遣り作業を行い、見事に花を咲かせた結果、コンクールで優秀賞を受賞。従業員のモチベーションが向上した。「大分」は2019年のラグビーワールドカップの会場近くに立地しており、近隣の自治会と協力して会社から会場方面に向かう国道沿いに花を植えた。来年も植栽を続け、大会を盛り上げると共に、地域との連携を深めていく。また岩手、大分の両事業所で毎年恒例となっている中心市街地や会社周辺の清掃活動については、参加者が年々増加。PRの成果もあり、積極的な従業員が増えている。以前と比べると落ちていたごみの量は減っているが、それでも拾ったごみの量に驚きを感じると共に、きれいになった街の様子を見て多くの従業員が喜びを感じている。

10月の5R推進月間でも社会貢献と人づくりを結びつけた活動を実施。昨年の「家庭からの不要ケーブル・コードの回収」を今年も実施したほか、職場の環境リーダーから提案があった「家庭のアルミ缶回収」を行い、売却で得た収益金は災害被災地の義援金として寄付した。新企画である「全員で取り組む『5Rリーダー宣言』」はユニークなアイデアであり、社長、全部長が5Rについての思いや意気込みを普段見せることのない格好で宣言。様子をビデオ撮影し、動画で社内HPに掲載したところ、閲覧した従業員から大好評であり、5Rの定着に大いに効果があったと考える。

環境教育については、今や世界の共通目標となっているSDGs(17のゴール)の内容を全従業員に教育した。各職場の業務目標がすなわちSDGsにつながっていることを理解すると共に、自分たちが出来ることを見つけて積極的に取り組むよう努めている。世界が注目している事柄に目を向け、時流から遅れることのないよう、タイムリーな環境情報を伝えることを今後も続けていく考えであり、今回の教育を新鮮な感覚で捉えている従業員が多かった。

行政・環境団体が主催するイベントについても、今年新たに取組んだものがある。「北上市花いっぱい運動」の一環で行われた「しらゆり」の植栽地の整備(7月)と球根の植栽活動(10月)に各職場の従業員が参加した。また、岩手県環境カウンセラー協議会主催の「いわて環境塾」が7月～12月、計6回シリーズで行われ、こちらにも出席した。植栽活動と環境塾は、いずれも休日開催であるが、積極的に参加しており、取組意識が確実に高まっている。

地域と連携した活動にも多くの従業員が参画している。「大分」でのホテルを呼び戻す取組は生物多様性保全活動として行っているものだが、周辺住民(自治会)と協力しながら進めており、連携を図っている。従業員の家族もホテルと一緒に観賞することで、より地域との一体感を増している。

コミュニケーションに関しては多くの機会を設定し、従業員の環境意識向上につながる活動を展開している。2018年の注力事項の中に、大学の研究者とのコミュニケーションがある。以前、大分大学の先生を訪問してCSRの取組に関する会話をを行ったが、今年は外部団体とのコラボレーションやネットワーク構築の進め方、ESDやSDGsに関する事項、また廃棄物削減の有効な手立てについて専門家の助言を頂戴したく、岩手大学(2名)、岩手県立大学(1名)の先生を訪ねて有用な情報を得た。早速計画に反映させ、環境団体が主催する教育やイベントへの参加、全員対象としたSDGs教育を行ったほか、廃棄物で最も発生量の多い排水処理汚泥の削減検討を加速させた。これまで知りえなかった情報を得ることで担当者の視野や行動範囲の広がり、従業員一人ひとりのレベルアップに寄与することとなった。

2018年は「環境 人づくり」の取組に一層の弾みをつけるため、これまでの活動の定着に加え、

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

昨年に増して多様な発想で新企画の立案～実施を図り、各職場と連携しながら取り組んできた。活動レベルは着実に上がっているが、各人が環境人財の理想像を描き、次のステップへ成長できるよう、会社として更に踏み込んだ仕掛けを講じることが今後の課題である。

今後の改善

この1年の活動を振り返ると、「環境 人づくり」の活動としては昨年以上の成果があったと考えている。新たな取組の発掘、全員参加のイベントを増やしたことで従業員の参加率が向上し、環境への関心度が高まったことがうかがえる。色々な企画を行う上で留意したことは「楽しみながら参加できる」ことである。実施要件のハードルを下げ、効果が見えること、満足感、達成感が得られることを重要視した。結果として、外部からの表彰を頂き、従業員のモチベーションも向上している。また、昨年は地域や環境団体などの外部組織、大学の先生とコミュニケーションを進めていくことを課題の一つに挙げていたが、今年は実行することができ、相応の成果があったことは評価したい。

今後、「環境 人づくり」を継続する上で重要なことは、従業員の意識の変化や満足度を感じ取りながら、自ら進んで行動する環境人財の育成に相応しい取組を社会貢献活動と一体化させ、更に推進することである。そして、各人の意識レベルを上げ、視野を広げていくため、一步踏み込んだ行動が必要である。一例として、環境関係の実務はもとより、環境全般の広い知識や理解を深めるため、eco検定への取組も始めている。環境活動を推進する事務局は全員、検定合格済で、今は各職場の環境リーダーを中心に合格者を増やすよう進めている。

全員活動で名実共に環境人財を育成し、環境経営を支えていくよう、常にステップアップを意識した取組を展開していく。

関連・補足情報

1. 株式会社ジャパンセミコンダクター「環境報告書 2018」

<http://www.jsemicon.co.jp/csr/pdf/env2018.pdf>

審査委員会からの講評

全社を挙げて実施している人材育成は大きく分けて3区分ある。一つ目は社員啓発活動としての各種月間行事の取り組み。二つ目は産官学や地域住民とのコミュニケーションを意識した取り組み、最後に地域社会に向けて実施している社会貢献活動としての取り組み。

このように社員の環境意識の育成と社会とのつながりと貢献を意識した取り組みは、SDGsを意識しつついずれも楽しみながら参加できる企画を数多く実施し、主体性を育てている。そしてこれまで実施していた活動を常に振り返り、より良い活動にするべく改善を進めるなどPDCAを実践し、社員のモチベーションが疲弊してしまうのではなく、しっかりと関心を高める方向に導いている点は、人材育成としてのあるべき姿となっており、高く評価する。

さらに会社としての人材育成の方向性を「各人が環境人財の理想像を描き、次のステップに成長できるよう、会社としてさらに踏み込んだ仕掛けを講じることが課題」としており、人材育成としての次のステップに取り組みが移行していることから、モデルケースとしてふさわしい。